器内科、循環器内科、小児科、脳神経外科、総合診療、救急、産婦人科、整形外科、消化器外科、放射線科）が参加しています。このプログラムの実施によって三大学病院ともに専門修練医が増加傾向にあり、今後中九州の地域に根ざした医療に従事する専門医がより多く輩出されることが期待されています。

これらの活動を通して、熊本県の今後の医療を担う医師の育成を進めて参ります。神原武理事長をはじめ会員の皆様には、今後とも継続してご支援を賜りますようお願い申し上げます。

熊本大学医学部附属病院総合臨床研修センター　センター長　片渕　秀隆

第二十五回熊本医学・生物科学国際シンポジウムの開催のご報告とお礼

第二十五回熊本医学・生物科学シンポジウムを、グローバルＣＯＥプログラム「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」、第五回日中交流生命科学シンポジウム、熊本大学拠点形成「ライフスタイルとストレスシグナル」、組織的な大学院教育改革推進プログラム「臨床・基礎・社会医学一体型先端教育の実践」との合同シンポジウムとして、平成二十一年十一月十二日～十三日に熊本全日空ホテルニュースカイにおいて開催し、本学教員、大学院生などを中心に二百名を越える参加者に出席いただきました。

今回は、メインテーマを「糖尿病研究の最前線－基礎から臨床まで」とし、糖尿病など代謝疾患の研究・臨床の発展ならびに若手研究者の育成を目的とした講演とポスター発表を行いました。初日には、中国協和医科大学より Wen-Hui Li 先生と Ying Liu 先生をお招きし、ご講演いただきました。二日目午前には、インスリン分泌の制御機構について、清野 進先生（神戸大学）と高橋倫子先生（東京大学）、２型糖尿病患者における遺伝子多型解析結果について Graeme I. Bell 先生（シカゴ大学）、Juliana C. N. Chan 先生（香港中文大学）、堀川幸男先生（岐阜大学）からご講演いただきました。午後からは、糖尿病に対する移植・再生医療のお話を Yuval Dor 先生（ヘブル大学）、Jorge Ferrer 先生（スニェ研究所）、Hirofumi Noguchi 先生（ベイラー研究所）にしていただきました。最後に代謝異常と糖尿病の発症機構について Steven Shoelson 先生（ハーバード大学）、松澤佑次先生（住友病院）、箕越靖彦先生（生理学研究所）にご講演いただきました。

学内からも荒木栄一教授（代謝内科学）、粂昭苑教授（発生医学研究所）、魏范研助教（分子生理学）、山縣が講演を行い、熊本における糖尿病研究の質の高さを示すことができたと思います。

シンポジウムには、学内外から多数の方に参加いただき活発な討議が行われました。参加いただきました同窓の先生には誌面をお借りいたしましてお礼を申し上げます。

最後になりましたが、本シンポジウムの開催にあたり、多大なご支援を賜りました公益財団法人肥後医育振興会、熊本大学、大学院医学薬学研究部、医学教育部、医学部の皆様に心より御礼申し上げます。

熊本大学大学院生命科学研究部　病態生化学分野　教授　山縣　和也
熊本大学大学院生命科学研究部　分子生理学分野　教授　富澤　一仁

第十回熊本大学医学部医学科医学教育ＦＤワークショップ開催のご報告

第十回熊本大学医学部医学科医学教育ＦＤワークショップは、例年の様に学事や診療業務が一段落した平成二十一年十二月二十六日（土）に、中央診療棟七階の総合臨床研修センターにおいて開催されました。本ワークショップは全国的な医学教育改革の流れを背景として、本学における医学生教育の現状を把握し、再点検する意味を持っています。本学における医学教育ＦＤワークショップは平成十二年九月に第一回が開催されましたが、今回でいよいよ十回目を迎えました。この間、本ワークショップでの討論をたたき台として、チュートリアル教育や統合型授業が導入されてきましたが、十回目を迎え、新しい視点から、これまでの医学教育のあり方を見直すことと致しました。学外タスクフォースとして、これまでと同様に慈恵医大教育センター長・福島統教授をお迎えして、教員三五名と四年次の学生七名の参加のもとで活発な討論が展開されました。

今回は、十回目を迎えたこともあり、原点に戻って本学における医学教育体制を再点検するとともに、今後の医学教育の方向性について考えました。学外タスクフォースの福島先生からは「わが国の卒前教育の現状」、「基礎医学と臨床医学の統合：カリキュラム的側面」の二テーマについて、全国的なレベルからお話しを伺いました。このご講演をもとに、六つのグループに分かれて「本学における医学教育の問題点」ならびに「基礎と臨床をつなぐ統合講義のあり方」についてグループ討論を行い、グループ別に全体発表を行って貰いました。各グループからはユニークなアイデアが続出し、活発な討論がなされました。最後の「一人一言感想」では、全ての参加者から、忌憚のない自由な意見と感想が述べられ、大変、有意義なワークショップとなりました。

本ワークショップでは、毎回、自由な発想に基づいた優れたアイデアが数多く提言されますが、アイデアだけに終わってしまうことをこれまで残念に思っていました。しかし、今年六月に、これまでのワークショップでしばしば提言されていた医学教育の専任組織として「臨床医学教育研究センター」の設置が決定したのは、大きな成果だと思います。今後、同センターを基盤として、本学の医学教育がますます充実することを期待したいと思います。